

Godox 神牛

X1

TTLワイヤレスフラッシュトリガー
TTL Wireless Flash Trigger

For Canon

取扱説明書



深圳市神牛摄影器材有限公司
GODOX Photo Equipment Co., Ltd.

所在地/Add: 深セン市宝安区福海街道塘尾社区耀川工业区厂房2棟1階~4階、4棟1階~4階
1st to 4th Floor, Building 2/ 1st to 4th Floor, Building 4, Yaochuan Industrial Zone,
Tangwei Community, Fuhai Street, Bao'an District, Shenzhen 518103, China
電話 /Tel: +86-755-29609320(8062) ファックス /Fax: +86-755-25723423
電子メール/E-mail: godox@godox.com
705-X1C000-16

Made In China



目次

- 02 はじめに
- 03 警告
- 04 部品
 - 本体
 - トランスミッターディスプレイ
 - レシーバディスプレイ
 - 付属品
- 07 電池
 - 電池の装着
 - 低電池残量指示
- 08 フラッシュトリガーの使い方
 - ワイヤレスシンク口によるスタジオフラッシュのトリガー
 - ワイヤレスシンク口によるセットトップフラッシュのトリガー
 - ワイヤレスによるカメラシャッターのトリガー
 - PCポートワイヤレスによるスタジオ(セットトップ)フラッシュのトリガー
- 10 トランスミッターの設定
 - 電源スイッチ
 - AF補助フォーカシングランプスイッチ
 - チャンネルの設定
 - モードの設定
 - カレントグループ値の設定
 - ストロボパラメーターの設定(回数、周波数)
 - ストロボパラメーターの設定(出力値)
 - グループ値の設定
- テスト発光
- モデリングランプのコントロール
- GRグルーピングモードの設定
- 自動に節電モードに入ります
- C.Fn:カスタム機能の設定
- ワイヤレスシャッターモード
- カメラ側の設定

- 16 レシーバの設定
 - ワイヤレスシャッターモード
 - チャンネルの設定
 - グループの設定
 - 自動に節電モードに入ります
- 17 操作方式の選択
- 21 注意事項
- 21 フラッシュトリガーの保守
- 22 仕様
- 24 対応カメラ

X はじめに

この度はX1C TTLワイヤレスフラッシュトリガーをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。はじめに

本TTLフラッシュトリガーは1台のトランスミッターと1台または複数台のレシーバと組み合わせて使用し、リモートでカメラシャッター、スタジオフラッシュとセットトップフラッシュをトリガーします。マルチチャンネルでコントロールし、信号が安定であり、感度が鋭敏であり、カメラマンの配光に便利し、各種撮影ニーズを満足できます。本フラッシュトリガーはホットシュー付きのCANON EOSシリーズカメラに適用すると同時に、PCポート付きカメラと接続できます。ハイスピードフラッシュシンク口をサポートし、最大フラッシュシンク口スピードが1/8000sに達しており、E-TTL IIをサポートするセットトップフラッシュの操作に使われます。また、スタジオフラッシュのトリガーに使用でき、ハイスピードシンク口を実現できます。

*：制限条件——カメラの最大シャッタースピードは1/8000sです。

警告

- ▲ 自分勝手に本製品を分解しないでください。製品に故障が出た場合、本社または授權された専門業者よりチェックし、メンテナンスします。
- ▲ 自分勝手に本製品を分解しないでください。製品に故障が出た場合、本社または授權された専門業者よりチェックし、メンテナンスします。
- ▲ 子供に本製品を触れさせないでください。
- ▲ 燃焼しやすく爆発しやすい環境で使用しないでください。このような場合、関係警告マークに注意してください。
- ▲ 50℃を超えた高温環境で置かないでください。
- ▲ いかなる故障が起こった場合、直ちにトリガーの電源を切ってください。
- ▲ 電池使用時の注意事項は下記の通りです。
 - 本マニュアルに記載された電池だけを使うことができます。新しい電池と古い電池またはタイプの違った電池を混ぜて使わないでください。
 - メーカーの提供した警告または指示を詳しく読んで遵守してください。
 - 電池を短絡させたり、電池を分解したりしないでください。
 - 電池を火の中に捨てたり、加熱したりしないでください。
 - 電池を装着する時に、電池の極性を間違わないでください。
 - 電池が切れると、液漏れしやすくなります。製品を損なわないため、長期間にわたって使わない時、または電池が切れた時に、電池を取り出してください。
 - 損なわれた電池中の液体が皮膚または衣服に触れた場合、直ちに大量な清水で洗い流してください。

X 部品

● 本体

トランスミッター



X 部品

レシーバ



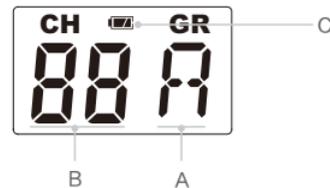
X 部品

トランスミッターディスプレイ



- (A) Mモードにおける各グループ出力の設定、TTLモードにおける各グループFECの設定
(B) グルーピングモードの設定 (C) グループ別 (D) 選択されたカレントグループ
(E) チャンネルの設定 (F) 低残量アラームアイコン (G) GRグルーピングモードアイコン
(H) シンクロ遅延設定提示 (I) Multiモード発光 (J) シングルコンタクトモード
(K) 後幕シンクロ

レシーバディスプレイ



- (A) グループ設定 (B) チャンネル設定 (C) 低残量アラームアイコン

X 部品

● 付属品

- 1.カメラリモコンケーブル (C1、C3) 2.フラッシュシンクロケーブル 3.シンクロ変換コネクタ



X 電池

● 電池の装着

トランスミッターとレシーバ表面にある電池ボックスのカバーをスライドさせ、電池ボックス内の正負極指示によって、2本のAA電池（別にご購入する必要があります）を装着します。

● 低電池残量指示

電池残量が低い時（2本電池<2.0V）、低残量アイコンは点滅します、この時に電池を交換してください。そうしないと、距離は遠い時に、ミスフラッシュしたり、フラッシュしなかったりすることがあります。



X フラッシュトリガーの使い方

本フラッシュトリガーは下記の機能を有しています。

1. ワイヤレスシンクロによるスタジオフラッシュのトリガー使い方：

- 1.1 カメラの電源を切り、トランスミッターをカメラホットシューソケットに置き、トランスミッターの電源スイッチとカメラの電源をオンにします。
- 1.2 スタジオランプの電源を切り、「フラッシュシンクロケーブル」を通じて接続し、両端にそれぞれレシーバの「2.5mm シャッターポート」とフラッシュの「シンクロソケット」を差し込み、スタジオランプの電源をオンにします。
- 1.3 「チャンネル設定ボタン」を通じてチャンネルを選択し、トランスミッターとレシーバのチャンネルを一致させます。
- 1.4 カメラのシャッターを押すだけで、トリガーできます。同時にレシーバとトランスミッターの「状態インジケーター」が赤色に点灯します。



2. ワイヤレスシンクロによるセットトップフラッシュのトリガー使い方：

- 2.1 カメラの電源を切り、トランスミッターをカメラホットシューソケットに置き、トランスミッターの電源スイッチとカメラの電源をオンにします。
- 2.2 セットトップフラッシュをレシーバ「セットトップランプトリガーホットシュー」に差し込みます。
- 2.3 「チャンネル設定ボタン」を通じてチャンネルを選択し、トランスミッターとレシーバのチャンネルを一致させます。
- 2.4 カメラのシャッターを押すだけで、トリガーできます。同時にレシーバとトランスミッターの「状態インジケーター」が赤色に点灯します。



X フラッシュトリガーの使い方

3. ワイヤレスによるカメラシャッターのトリガー

使い方：

- 3.1 カメラの電源を切り、「カメラリモコンケーブル」を通じて接続し、両端にそれぞれレシーバの「シャッターポート」とカメラのシャッターソケットを差し込み、カメラの電源をオンにします。
- 3.2 <TEST> トリガーボタンを半押ししてフォーカシングします。<TEST> トリガーボタンを全押しして撮影し、ボタンから指を離すまで、状態インジケータは赤色に点灯します。



4. PCポートワイヤレスによるスタジオ（セットトップ）フラッシュのトリガー

使い方

- 4.1 レシーバ側の接続について「ワイヤレスシンクロによるスタジオフラッシュのトリガー」と「ワイヤレスシンクロによるセットトップフラッシュのトリガー」という節を参照してください。
- 4.2 トランスミッター側のデフォルトとして、PCポートを入力ポートとしており、レシーバ側をコントロールするフラッシュは点灯します。
- 4.3 正常方式でシャッターを押します。PCポート信号を使って発光をコントロールします。
- 4.4 PCポートは出力ポートに設定されることができます。具体的な操作方法は下記の通りです。トランスミッター側で<CH/OK> ボタンを長押しし、ディスプレイに<Fn>を表示させ、C.Fn-03値をouに設定し、PCポートを出力モードに設定します。



X トランスミッターの設定

● 電源スイッチ

電源スイッチを「ON」にするだけで電源をオンにすることができ、状態インジケータは表示します。

注意：節電するために、長時間にわたって使用しない場合、電源をオフにしてください。

● AF補助フォーカシングランプスイッチ

電源スイッチを「ON」にして、AFフォーカシング光線を出力させます。

● チャンネルの設定

1. <CH/OK> ボタンを短押しして、チャンネル値は点滅します。
2. ダイヤルを回して適当なチャンネル値を選択します。再度<CH/OK> ボタンを押して、カレントチャンネル値は選定されます。
3. フラッシュトリガーは合計32個のチャンネルを持っており、1~32チャンネルの中で切り替えることができます。使用前にトランスミッターとレシーバを同じチャンネルに設定してください。

● モードの設定

1. <MODE> ボタンを短押しして、選択されたグループのモードは変わります。
2. <GR> グルーピングモードでない場合、あらゆるグループのモードは一緒にTTL/M/Multiの間で順次に切り替わり、対応するRatio光量比モードが発光します。<GR> グルーピングモードの場合、カレントグループのモードはTTL/M/--モードの間で順次に切り替わります。



X トランスミッターの設定

● カレントグループ値の設定

- 1.<GR> ボタンを短押しして、カレントグループを設定できます。
- 2.カレントグループ値は点滅し、ダイヤルを回して設定値を変更できます。
- 3.カレントグループはMモードである場合、そのパワー出力値はMin.[注1]~1/1の間で0.3をステップとして変化します。カレントグループはTTLモードである場合、そのFEC値は-3~-3の間で0.3をステップとして変化します。カレントグループモードは--(発光はオフにされています)である場合、何の影響もありません。
- 4.再度<GR> ボタンを短押しして、設定値を確認します。



[注1]

Min.はMまたはMultiモードで設定可能な最低出力値をさします。C.Fn-05の設定値によってそれぞれ1/128または1/256です。多くのセットトップランプで、サポートする最低出力は1/128であり、1/256に設定できません。神牛会社のAD600などのハイパワースタジオランプと組み合わせると、最低出力を1/256まで調整できます。

● ストロボパラメーターの設定(回数、周波数)

- 1.ストロボモード (TTLとMアイコンはいずれも表示されません) で、<MODE> ボタンを長押しすると、ストロボパラメーター設定サブメニューに入ります。
- 2.2行の表示内容はそれぞれT(発光回数)、H(発光周波数)です。
- 3.<GR> ボタンを短押しすると、対応する設定値を選択できます。設定値は点滅している時に、ダイヤルを回して設定値を変更できます。
- 4.引き続き<GR> ボタンを短押しすると、次の行の設定値は点滅し、設定値を変更できます。



X トランスミッターの設定

5. 項目の設定値の設定に完成します。または、いずれかの項目を設定する時に、<MODE> ボタンを短押しすると、設定状態を退出します。点滅している項目はありません。
- 6.ストロボパラメーター設定サブメニューで、点滅している項目がない場合、<MODE> ボタンを短押しすると、メインメニューに戻ります。

● ストロボパラメーターの設定 (出力値)

1. ストロボモード (TTLとMアイコンはいずれも表示されません) で、<GR> ボタンを短押しすると、カレントグループを設定できます。
- 2.Multiストロボモードの場合、そのパワー出力値はMin.~1/4の間で整数段で変化します。



発光回数は発光出力値と周波数に制限されます。設定された発光回数はシステムに許容された上限を超えてはいけません。レシーバ側に伝送された回数は実際発光回数であり、カメラのシャッター設定とも関係があります。

● グループ値の設定

- 1.<GR> ボタンを長押しして、あらゆる有効グループと一緒に設定できます。
- 2.あらゆる有効グループのグループ値は点滅し、ダイヤルを通じて設定値を変更できます。一つの有効グループは最大値またはMin.値になると、有効グループの値は変化しません。
- 3.カレントグループはMモードにある場合、パワー出力値は一つのグループの値が最大値 (1/1) または最小値 (Min.) になるまで、Min.~1/1の間で0.3をステップとして変化します。カレントグループはTTLモードにある場合、あらゆるモードが同じくTTLであるグループのFEC値はシンク口に調整されます。FEC値は一つのグループの値が最大値 (3) または最小値 (-3) になるまで、-3~3の間で0.3をステップとして変化します。カレントグループモードは--(発光シャットダウン) である場合、何の影響もありません。
- 4.MモードまたはTTLモードのグループは最大値またはMin.値になるまでともに作用します。
- 5.<GR> ボタンを短押しして、設定値を確認します。

X トランスミッターの設定

● テスト発光

1. <TEST> トリガーボタンを押して、発光は正常であるか否かをテストできます。
2. <TEST> トリガーボタンを全押しすると、この時の状態インジケータは赤色に点灯し、レシーバ側のフラッシュをトリガーします。
3. また、トランスミッターを使って、カメラのフォーカシングと撮影をコントロールします。この時のレシーバ側はカメラと接続しています（フラッシュと接続しません）。
4. 待機モードで、TESTボタンを押してレシーバを呼び覚ますことができます。
5. トランスミッターの設定値は同時にシンク口にレシーバに伝送されます。



● モデリングランプのコントロール

<CH/OK> ボタンをダブルクリックしてモデリングランプのスイッチをコントロールできます。

● GRグルーピングモードの設定

1. <MODE> モードボタンを長押しし、Grアイコンを表示させると、GRグルーピングモードに設定されたことを示します。
2. GRグルーピングモードを取り消したい場合、再度<MODE>モードボタンを長押しして、Grアイコンを消失させると、GRグルーピングモードを退出したことを示します。

注意：2012年以後に発表されたCANON EOSカメラだけに使用された時、GRモードは正常に使用できません。GRグルーピングモードで、ストロボ発光を設定できません。



X トランスミッター

● 自動に節電モードに入ります

1. トランスミッターの操作を中止してから60秒後に、システムは自動に待機モードに入り、この時LCD表示は消えます。
2. システムを呼び覚みたい場合、いずれかのボタン（<TEST>全押し/<CH/OK>/<GR>/<MODE>）を押すことができます。トランスミッターはCANON EOSカメラのホットシューに取り付けられた場合、カメラのシャッターを半押しすることを通じてシステムを呼び覚ますことができます。
3. トランスミッターにシングルコンタクトモード（表示）が設定された場合、節電モードに入りません。

● C.Fn：カスタム機能の設定

下記の表にある本製品応用欄を参照して、カスタム機能を使って設定を完了させます。「✓」は当該フラッシュはカスタム設定をサポートすることを示し、「0」はカスタム設定をサポートしないことを示します。

カスタム機能番号	機能	設定番号	設定と説明	本製品応用
C.Fn-00	シンク口遅延設定	00	遅延無し	✓
		1~100	遅延N*100us発光(遅延アイコン  表示)	
C.Fn-01	シングルコン	--	シャットダウン	✓
	タクトモード	on	起動(シングルコンタクトモード設定済みアイコン  表示)トランスミッターはPCケーブルでカメラと接続されてトリガーされたり、カメラはシングルコンタクトを通じてトリガーされたりする場合、トランスミッターをシングルコンタクトモードに設定することをオススメします。	
C.Fn-02	Zoom値の設定	--	シャットダウン	✓
		AU	カメラのZoom値に従って変わります	
		20,24,28,35,50,70,80,105,135,200	固定Zoom値(20/24/28/35/50/70/80/105/135/200mm)	
C.Fn-03	PCポートを入力・出力ポートとします	In	入力：PCポートはカメラと接続します	✓
		ou	出力：PCポートはフラッシュと接続します	
C.Fn-04	後継シンク口 [注2]	--	後継シンク口シャットダウン	✓
		on	後継シンク口起動	

X トランスミッターの設定

カスタム機能番号	機能	設定番号	設定と説明	本製品応用
C.Fn-05	M/Multiモードにおける最小出力パワー	1/128	M/Multi最低出力パワーは1/128です	✓
		1/256	M/Multi最低出力パワーは1/256です	
C.Fn-06	ワイヤレスグループ表示数	03	3グループのワイヤレスグループを表示します	✓
		05	5グループのワイヤレスグループを表示します	
C.Fn-07	ブザーのシャットダウン/起動	--	レシーバ側のブザーをシャットダウンします	✓
		on	レシーバ側のブザーを起動します	
C.Fn-08	設定値を強制伝送します	--	設定値変更後だけに設定値を伝送します	✓
		on	設定値は変更されなくても、発光前に設定値を強制伝送します。	
C.Fn-09	APPモード	--	トランスミッターメインコントロールモードであり、トランスミッター側でトランスミッターモードと出力を設定できます。	✓
		on	APPモードを起動し、トランスミッターはフラッシュだけをトリガーします。チャンネルとカスタム項目だけ調整でき、LCDにAPPを表示します。	
Chボタンをダブルクリックすると、レシーバ側のモデリングランプを起動・シャットダウンできます。				✓
TESTボタンを押し続けて起動させ、Status状態インジケータは2回点滅し、近距離レシーブを設定できます。この時、有効リモコン距離は30m以下であり、レシーバとトランスミッターは非常に近付いても、正常に通信できます。				✓

[注2] :

後幕シンクロの場合、カメラの外付けフラッシュ機能を使って設定することができません。

後幕シンクロの場合、イネーブルシャッター範囲は30秒~1/30秒であり、シャッターがbulbに設定されたり、シャッター速度が1/30秒より速い場合、設定はディスプレイになります。

後幕シンクロがイネーブルにされた場合、すでにHSSハイスピードシンクロ発光に設定されていても、シャッター速度が30s~1/30sである時に、後幕シンクロもイネーブルになります。

後幕シンクロがイネーブルにされた場合、シンクロ遅延設定に従って遅延できません。

1.<CH/OK> ボタンを2秒またはそれ以上長押しして、<Fn> を表示させます。

2.カスタム機能番号を選択します。

* 調整つまみを回してカスタム機能番号を設定します。

3.設定を変更します。

* <GR> 設定ボタンを押すと、カスタム機能番号が点滅します。

* 調整つまみを回して欲しい番号を設定し、<GR> ボタンを押して確認します。

* カスタム機能を設定した後、<MODE> モードを押してボタンを選択すると、C.Fn設定状態を退出します。

X レシーバの設定

● ワイヤレスシャッターモード

<TEST> トリガーボタンを半押しし、フォーカシングします。<TEST> トリガーボタンを全押しし、この時の状態インジケータは赤色に点灯して撮影し、ボタンから指を離すまで、インジケータは消灯します。

● カメラ側の設定

カメラの外付けフラッシュ機能設定を使って設定します。

注：2012年後に発表されたCANON EOSカメラだけはGRグループ設定機能を有しています。使ったカメラはGRグループ発光方式をサポートしない場合、自動に非GRグループ発光モードに切り替わります。非GRグループモードはTTLモード時にRatio Offに固定されており、Mモード時にA:B:Cに固定されています。

● チャンネルの設定

- 1.<CH>チャンネルボタンを短押しすると、チャンネル値は回毎に1増えます。
- 2.<CH>チャンネルボタンを長押しして、快速調整モードに入ると、チャンネル値は快速に増えます。
- 3.短押しでも、快速調整でも、<CH>ボタンから指を離すと、カレントチャンネル値は設定されます。
- 4.チャンネル値は01~32の間で順次に増え、32チャンネルで引き続き調整する場合、チャンネル1に変換します。



● グループの設定

- 1.<GR>グループボタンを短押しすると、グループ値は回毎に1増えます。
- 2.<GR>グループボタンを長押しして、快速調整モードに入ると、グループ値は快速に増えます。
- 3.短押しでも、快速調整でも、<GR>ボタンから指を離すと、カレントチャンネル値は設定されます。



X レシーバの設定

- 4.グループ値はA～Eの中で順次に増え、Eグループで引き続き調整すると、グループAに変換します。
 注：同じチャンネルのトランスミッターは非GRグループビングモードに設定された場合、レシーバ側の有効グループはA～Cです。レシーバ側のグループをA/B/Cに設定していることを確保してください。
 同じチャンネルのトランスミッターはGRグループビングモードに設定された場合、レシーバ側の有効グループはA～Eです。

● 自動に節電モードに入ります

- 1.トランスミッター側は待機状態に入った後、システムは自動に待機モードに入り、この時LCD表示は消えます。
- 2.システムを呼び覚ましたい時、<TEST> ボタンまたは<GR> ボタンを押すだけで良いです。また、トランスミッターを通じて呼び覚ますことができます（トランスミッター側で<TEST> トリガーボタンを全押しします）、トランスミッターはCANON EOSカメラホットシューに取り付けられた場合、カメラのシャッターを半押ししても良いです。

X 操作方式の選択

トランスミッター：

X1C操作方式1 (デフォルト)		
TTL/Mモード (GRモードまたは非GRモードで)		
ボタン	操作	機能
CH/OK	短押し	(常態で)CH設定状態に入ります。(設定状態で)確認して常態に戻ります。
	ダブルクリック	モデリングON/OFFをコントロールします。
	2秒長押し	C.Fn設定状態に入ります。
	5秒長押し	操作方式(方式1/方式2)の切替
GR	短押し	パワーPOWER/露出補正FECの設定を選択します。
	2秒長押し	あらゆるグループを選択します。
MODE	短押	(常態で)<▶グループ>モード(GRモードでTTL/M/OFF、非GRモードTTL/M/Multi)の切替

X 操作方式の選択

つまみ	状態	機能
	常態	<▶グループ>設定を選択します
	channel状態の設定	channel数値を調整します
	グループ状態の設定	グループパワーPOWER/露出補正FECを調整します
Multiモード (非GRモードで)		
ボタン	操作	機能
CH/OK	短押し	(状態)CH設定状態に入ります。(設定状態で)確認して常態に戻ります
	ダブルクリック	モデリングランプON/OFFをコントロールします
	2秒長押し	C.Fn設定状態に入ります
	5秒長押し	操作方式(方式1/方式2)の切替
GR	短押し	(PTH状態で)回数times/周波数hzの設定を選択します
MODE	短押し	(常態で)<▶グループ>モード(TTL/M/Multi)の切替 (PTH状態で)常態に戻ります
	2秒長押し	PTH状態(T:回数times、H:周波数hz)に入ります
つまみ	状態	機能
	常態	無し(3グループ)/ペーシターニング(5グループ) [注3]
	channel常態の設定	channel数値の調整
	グループ常態の設定	設定グループのパワーPOWERを調整します
	回数状態の設定	回数数値の調整
	周波数状態の設定	周波数数値の調整

X 操作方式の選択

X1C操作方式2		
TTL/Mモード		
ボタン	操作	機能
CH/OK	短押し	(常態で)CH設定状態に入ります。(設定状態で)確認して常態に戻ります
	ダブルクリック	モデリングランプのON/OFFをコントロールします
	2秒長押し	C.Fn設定状態に入ります
	5秒長押し	操作方式(方式1/方式2)の切替
GR	短押し	下へ設定グループを選択します
	ダブルクリック	上へ設定グループを選択します
	2秒長押し	あらゆるグループを選択します
MODE	短押し	設定グループの発光モード(TTL/M/OFF)の切替
つまみ	状態	機能
	常態	無し(3グループ)/ページターニング(5グループ) [注3]
	channel状態の設定	channel数値の調整
	グループ状態の設定	設定グループのパワーPOWER/露出補正FECの調整
Multiモード (非GRモードで)		
ボタン	操作	機能
CH/OK	短押し	(常態で)CH設定状態に入ります。(設定状態で)確認して常態に戻ります
	ダブルクリック	モデリングランプのON/OFFをコントロールします
	2秒長押し	C.Fn設定状態に入ります
	5秒長押し	操作方式(方式1/方式2)の切替

X 操作方式の選択

GR	短押し	下へ設定グループを選択します (PTHモードで)設定回数times/周波数hzを選択します
	ダブルクリック	上へ設定グループを選択します
MODE	短押し	(常態で)<▶グループ>モード(TTL/M/Multi)の切替 (PTHモードで)常態に戻ります
	2秒長押し	PTH状態(T-回数times、H-周波数hz)に入ります
	つまみ	状態
	常態	無し(3グループ)/ページターニング(5グループ) [注3]
	channel状態の設定	channel数値の調整
	グループ状態の設定	設定グループのパワーPOWERを調整します
	回数状態の設定	回数数値の調整
	周波数状態の設定	周波数数値の調整

[注3]GRグループピン方式だけで5グループがあります。他の方式で3グループだけあります。
3グループ/5グループを表示することはC.Fn-06設定値03/05で指定されます。

レシーバ:

ボタン	操作	機能
CH	短押し	上へチャンネル値を調整します
	ダブルクリック	下へチャンネル値を調整します
GR	短押し	上へグループ値を調整します
	ダブルクリック	下へグループ値を調整します

X 注意事項

- 1.正しくトリガーしたり撮影したりすることができなかった場合、電池が正しく装着しているか、フラッシュトリガーの電源を入れているか、フラッシュトリガーが同じチャンネルに設定されているか、接続ケーブルまたはホットシューソケットが正しくしっかりと接続されているか、機能モードが正しく設定されているかを確認してください。
- 2.カメラが撮影できるが、フォーカスできない場合、本体またはレンズはMF（マニュアルフォーカス）に設定されているか否かを確認してください。AF（オートフォーカス）に設定してください。
- 3.フラッシュトリガーは他人の干渉によってトリガーされたり撮影されたりする場合、フラッシュトリガーのチャンネル設定を変更するだけで良いです。
- 4.トリガー距離が限られたり、ミスフラッシュ現象があったりする場合、電池残量が切れているか否かをチェックしてください。電池を交換してみてください。
- 5.トランスミッターがすでにカメラのホットシューに差し込まれ、電源スイッチがすでにオンにされているが、カメラのファインダーで<F>または<H>アイコンが見えない場合、トランスミッターの動作が正常でないことを示しています。ホットシューポートとカメラと正しく接続されていることを確保してから、トランスミッターの電源スイッチを再起動してください。

X フラッシュトリガーの保守

- 落下防止**：強いショックまたは振動を受けると、フラッシュトリガーは故障になることがあります。
- 乾燥維持**：本製品は防水機能を持っていないため、それを水中に浸したり、湿度の高い環境に置いたりすると、故障になり、内部構造に錆が出て修理不能な損害を受ける可能性があります。
- 温度急変防止**：温度の急変、例えば寒い季節に暖かいビルを出入りすることはフラッシュトリガーの内部に結露を起こさせることがあります。温度の急変による結露を避けるため、予めフラッシュトリガーをバッグまたはプラスチック袋に入れてください。
- 強磁場から遠く離れること**：ラジオ放送トランスミッターなどのデバイスによる強い静電または強磁場は本製品の正常動作を干渉する可能性があります。

X 仕様

タイプ	X1C
類型	Canonバージョン
対応カメラ	Canon EOSカメラ（E-TTL II 自動発光）をサポートします あらゆるPC出力ポートを持ったカメラをサポートします
ワイヤレス内蔵	2.4G周波数
変調方式	MSK
給電方式	2*AA電池
露出制御	
手動発光	あり
TTL自動発光	E-TTL II
TTL制御	
ハイスピードシンクロ	あり
露出補正	あり、±3段階の間で1/3段をステップとして調整できます
露出ロック	あり
補助フォーカシング	手動起動
ストロボ発光	あり
後幕シンクロ	あり
モデリング発光	あり、カメラの被写界深度プレビューボタンを使って発光します
ワイヤレス発光	
ワイヤレス機能	TTLモードで、Ratio Off
	Mモードで、光量比(A:B:C)
	GRグループ発光(A~Eグループはそれぞれ発光モードを設定 できます)をサポートします

X仕様

制御可能なスレーブ	GRグループモードで、5グループまで(A/B/C/D/E)
ユニットグループ	Ratio光量比グループモードで、3グループ(A/B/C)
伝送範囲(約)	>100m
チャンネル	32個
その他	
遅延設定	あり(0~10ms、100usを単位として設定します)
ワイヤレスシャッター	レシーバ側は2.5mmシンクロポートを通じてカメラの撮影を制御します
ZOOM設定	トランスミッターを通じてフラッシュ焦点距離値を調整できます
ディスプレイ	ワイドスクリーン液晶表示、バックライト起動またはシャットダウン
出力ポート	トランスミッター：PCポート入力、出力。レシーバ：2.5mmシンクロケーブル出力
ファームウェアアップグレード	本体にあるMicro USBを通じて、ファームウェアアップグレードを行ないます。
記憶機能	設定されたパラメーターは2秒後に自動的に記憶され、再起動すると、自動的に復元されます。
トランスミッターのサイズ/正味重量	72x75x52(mm)/100g
レシーバのサイズ/正味重量	70x65x47(mm)/70g

X対応カメラ

を含んだCanon EOSデジタル一眼レフカメラ：

1Dx Mark II, 1Dx, 5Ds/5Dsr, 5D Mark IV, 5D Mark III, 5D Mark II, 5D, 7D Mark II, 6D, 7D, 80D, 77D, 70D, 60D, 50D, 40D, 30D, 750D/760D, 100D, 800D, 700D, 650D, 600D, 550D, 500D, 450D, 400D DIGITAL (EOS Kiss Digital X), 350D DIGITAL, 1300D (Rebel T6), 1200D, 1100D, 1000D, M6, M5, M3